

生産性向上支援訓練カリキュラム概要

機構施設名：千葉職業能力開発促進センター  
 実施機関名：一般社団法人日本経営協会

A. バックオフィス	生成AIの活用
	新技術活用

コースのねらい	生成AIの概要とビジネスの現場における、具体的な活用シーン等について理解し、AIと協働することによる業務の質とスピードを高める技術を習得する。
---------	---

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間 (H)
	講義内容	1	生成AIの概要	(1) AIの歴史と生成AIの概要 “1950年代にAIという概念が提唱されてから、現在に至るまでの歴史的背景と生成AIの仕組みを共有する。 生成AIに関しては標準的なAI (ChatGPTやcopilot) を用いたデモンストレーションを行うことで、利用イメージを持っていただく。 【演習】生成AIを活用するうえでの懸念事項” (2) 生成AI活用の留意事項 “生成AIを活用するうえでの留意事項を事案を交えて紹介する。懸念事項を払拭する対応をすることで、生成AIを安全に使いこなす意識を持っていただく。 【演習】生成AIの業務利用方法の検討” (3) ITリテラシーの醸成 “生成AIはメールと同じく、従業員が外部に情報を提供するリスクがある。そのことを踏まえ、生成AIの利用に当たっての守るべき基本的な方針 (守るべき倫理・安全性・透明性・責任等) の重要性を共有する。また、ITリテラシーをどのように醸成していくべきか、各社の対応を紹介する。 【演習】ITリテラシー醸成のための取り組み”
2		生成AIの活用事例と今後の展望	(1) 生成AI活用の事例紹介 “生成AIの活用事例を紹介するとともに、様々な特性を持つAIをデモンストレーションする。生成AIの利用目的を明確にし、どのような状況、条件で利用すべきかを検討する。 【演習】生成AI利用に向けた目的と環境の整理” (2) 生成AIの可能性 “昨今では、エージェントAIや、RAGの導入により、生成AIの利便性がさらに増していることを共有する。自社業務をどのような形で支援させるか検討するきっかけとする。 【演習】生成AIによる業務支援の検討” (3) 生成AI導入に向けた問題解決 “ITリテラシーの醸成だけでなく、システム環境や投資効果の観点から導入の障壁となりそうなことを整理する。そのうえで、どのような対策を講じられるか検討する。 【演習】生成AI導入に向けた問題と解決の方向性整理”	3.0
		演習	各セッションで個人・グループワークを取り入れます。 (PCやスマホなど持参いただいた機器の出来る範囲で) 受講者に生成AIを用いた問題解決を実践演習していただき、生成AIを体感し、評価していただきます。	
計				6.0